2022 年度　教員の自己点検・自己評価報告書

所属学部　学科	職位	氏　　名
経営学部 地域ビジネス学科	教授	鵜飼裕之
最終学歴	学　位	専門分野
大阪大学物理系博士後期課程	博士(工学)	制御工学、電力システム工学

I　教育活動

○理念・目標・方針・計画（方法）

（理念）

東邦学園の建学の精神を受け継ぎ、中部経済圏において地域社会に貢献し、社会の転換点で活躍する有為な人材を育成する。

（目標）

学長として：

第三期中期 5 か年計画の実施

経営学部教授として：

担当授業科目である「次世代ビジネス技術」などを通じて、経営学部学生を対象として、西洋近代科学の誕生から第一次産業革命を経て現代の産業の発展に繋がる科学技術の進化の過程を学ぶことで「産業と科学技術」の関りを歴史的に理解すること、および今日迎えている第四次産業革命が将来どのような産業と文化を生み出していくのかを考える力を養うことを教育目標とする。

（方針）

長期ビジョン“AICHI-TOHO NEXT CHALLAEGE 2030“を達成するために教育・研究・国際交流などにおいて５つの方針を定めた（第三期中期 5 か年計画を参照)。

（計画）

第三期中期 5 か年計画の 2022 年度実施計画に記載の通り、教育プログラム・デジタル化推進プログラムなどの教育研究活動ならびに新キャンパス整備計画を通じて教育研究環境の改善に努める。

○担当科目（前期・後期）

（前期）

（後期）

次世代ビジネス技術

○教育方法の実践

「次世代ビジネス技術(次世代ビジネス基礎)」については、受講希望者が 110 名を超えたため、新型コロナウイルス感染防止対策ガイドラインに則して、対面方式とオンデマンド方式のハイブリッド方式にて実施した。ビデオ配信、PDF スライドによる資料配布を TEAMES にて行い、リモートでも授業参加が可能であるようにした。

○作成した教科書・教材

「産業と科学技術」に関するオリジナルな教材を新たに改訂して用いた。また、関連する図書、WEB 資料などについて紹介して学生の学習意欲を高めるなどした。

○自己評価

ハイブリッド方式を採用したが、できる限り対話形式の授業への参加を促したが、残念ながらオンデマンド方式での受講者数が多く、必ずしも学生の受講意欲を向上するには至らなかった。学生の授業感想などから推察すると、強い関心を持つ学生と持たない学生の両極化が推測される。本講義は、本来的に「現状の産業社会の課題と将来の科学技術の進化という問題を、学生と共に考えていくことを主眼としていることから、ハイブリッド型授業のメリットを生かして反転型授業を取り入れるなど、主体的な学びを誘起する工夫が必要であると考える。

Ⅱ　研究活動

○研究課題

システム思考的視点からとらえた産業技術の発展に関する基礎的な研究

○目標・計画

（目標）

Society5.0、インダストリー4.0など次世代に向けた産業構造の変革が求められる中にあって、システム思考という観点からわが国の産業技術を俯瞰し、様々な成功事例（例えば、ハイブリッド車、スマートホンなど）を参考にしながら、いわゆるモノづくりとコトづくりを融合した事業創造とは何か？という点について考察する。とくに、カーボンフリー電力に関する動向と将来の予測を通して産業技術の発展について展望する。

（計画）

以下の内容について検討する。

１．システム論的思考が現代科学史の中で果たした役割の検証。
２．これまでの産業革命において情報・システム理論が果たした役割検証。とくに、戦後におけるわが国の高度成長期においてシステム思考が普及しなかった理由についての考察。
３．中部経済圏におけるものづくり産業が抱える現在的な課題の整理。
４．システム論的思考がものづくりとコトづくりの融合に果たす役割についての検討。
５．カーボンフリー電力の現状調査と将来予測。
６．検討内容のとりまとめ、産業技術の発展にシステム思考が果した役割について明らかにする。

○2015年4月から2023年3月の研究業績（特許等を含む）

（著書）

なし

（学術論文）

なし

（学会発表）

なし

（特許）

なし

（その他）

なし

○科学研究費補助金等への申請状況、交付状況（学内外）

なし

○所属学会

電気学会、計測自動制御学会、原子力学会、米国電気電子学会など複数の会員

○自己評価

業社会における科学技術の役割をシステム論という観点から明らかにするという研究課題に対して、授業資料作成等を通して、一定の成果が得られたものと考える。

Ⅲ　大学運営

○目標・計画

（目標）

第三期中期5か年計画全体の推進統括

（計画）

第三期中期5か年計画を参照

○学内委員等（事前記載項目）

国際交流センター運営委員会、自己点検・評価委員会、人事委員会

○自己評価

第三期中期5か年計画の推進を統括し、計画の進捗状況については半期ごとに評価点検を実施した（2022年度事業報告ならびに自己点検評価報告書を参照）。

Ⅳ　社会貢献

○目標・計画

（目標）

中部経済圏での愛知東邦大学のプレゼンスの向上

（計画）

中部経済連合会、中部経済同友会（常任幹事）などの経済団体での活動を通して、教育・研究における産学連携を活発化するとともに、中部圏での愛知東邦大学のプレゼンスを高めるために努める。

○学会活動等

学会等への参加は主としてWEB形式にて行った。

○地域連携・社会貢献等

大学と地域との連携活動を統括するとともに、大学代表として中部圏経済団体の諸活動に積極的に関わることで地域産業界に貢献した。

○自己評価

中部経済連合会に積極的に参加するとともに、とくに中部圏における経済4団体の一つである中部

経済同友会において常任幹事を務めるなど中部圏の経済界における活動を通じて積極的に貢献した。

Ⅴ　その他の特記事項（学外研究、受賞歴、国際学術交流、自己研鑽等）

文部科学省の専門委員ならびに愛知教育大学、九州工業大学の国立大学経営協議会委員としての活動を通じて、わが国の高等教育の発展のために活動した。

Ⅵ　総括

愛知東邦大学長2年目において､第三期中期5か年計画に掲げた大学改革を積極的にけん引して、本学の教学マネジメントの充実を図るとともに、東邦学園理事として、法人における経営改革にも貢献することができたと考える。とくに、2025年度設置に向けた学部学科再編構想を着実に前進させた。また、専門分野であるシステム工学の知見などを生かした経営学部における研究教育活動についても一定の目標を達成できたと考える。

以　上